

松本亀次郎編集代表『日本語教科書』改訂までの足跡 教科書編纂のプロセスを追う

1. はじめに

1906年(明治39年)宏文学院において『日本語教科書』3巻本が編纂された。その編集主任には宏文学院院長嘉納治五郎により松本亀次郎が任じられた。松本が教科書の原稿を書き、月に1~2回口語教授会において他の教授たちと議論を交わし、およそ1年後に刊行された。松本の原稿に対して校閲した文書から編集者がどのような観点から教科書を編纂しようとしていたかを窺う事ができる。また1927年(昭和2年)東亜高等予備学校において改訂された『改訂日本語教科書』と比較分析することにより教科書編纂の進化のプロセスを探る。

2. 『日本語教科書』と『改訂日本語教科書』

	『日本語教科書』	『改訂日本語教科書』
発行年	明治39年6月5日 1巻 明治39年7月7日 2巻 明治39年8月10日 3巻	昭和2年2月25日
発行所	金港堂書籍	有隣書屋蔵
	全3巻 1巻 1課~86課 165頁 2巻 1課~42課 156頁 3巻 1課~57課 170頁	全1巻 1課~157課 225頁

2.1 『日本語教科書』の構成

初級から中級、易から難へ 教科書作りの基本

文の構成要素により整理されている。日本語教育文法というべきものの先駆け

て居る、て居る、

て下さい、なければならぬ、てはいけない、だろう、らしい、まい、たい、

て見る、ておく、てあげる、てやる、てもらう、によって、に随って、にとつては、

につれて、からみると、とはいうものの

文型の萌芽をみることができる。

「浴室八何処ニ在リマスカ」「浴室八其処ニ在リマス」「何処ガ応接所デスカ」「アスコガ応接所デス」

2.2 校閲からみる『日本語教科書』

宏文学院関係資料・講道館

文書・鶴田健次、

佐村八郎、菊地金正「日本語教科書草稿二対スル愚見」

三矢重松、松下大三郎、難波常雄、臼田寿恵吉

・・・それぞれの文書に朱筆による松本亀次郎と思われる意見の書き込み

その書き込みに三矢の意見も挿入されている。

教科書編纂全般に通じる事

「日本語教科書草稿二対スル愚見」より

- 一、予定ノ要領ヲ授ケ、コレヲ咀嚼シ実用セシメントシテ、普通卑近ノ適用ヲ選ビ、反覆親切ナルコト、終始一貫周到セリ。経 若心ノ跡歴々見ルベキナリ。
- 二、書名「日語教科書」ハ「日本語教科書」ト改メタシ。日語ハ日本語ノ漢訳ナラザルベキカ。少クモ清人ノ套語ナルベシ。此ノ書ニ此ノ語ヲ題センコト、或ハ如何アルベキ。
- 三、第一課 第二課 第三課・・・等ハ全巻ヲ通ジテハ 一、二、三、・・・若クハ第一、第二、第三・・・等ニ改メタシ。他ニ深キ理由ナケレド、要ナキニ煩ヲナスノ観アリ。
- 四、各項ノ標題 主目等ハ凡テ削除シタシ。教科書トシテハ教師ノ注意、学生ノ発明等ニ任スベキモノナルベキカ。
- 五、単語ニ註シタル漢字ハナクモガナ。タマタマ、日、火、等ノモノニ漢字ヲ註スルハ自ラ別問題ナリ。
- 六、語例ニ同例多クシテハ 往々煩雜ニ失シ興味ヲ損ズルモノアラザルベキカ。
- 七、重キヲ語法ニ丞ケ 語路調子等ニ不自然ノモノアラザルベキカ。
- 八、教科書トシテ 分量 程度 順序等ハ俄ニ愚見ヲハサムベクモアラズ。
- 九、全巻ヲ通ジテ挿絵ノ要アルベキカト思フ。少クトモ或ル事物ダケハ絵画ニ由ツテ直覺的ニ教授スルノ要アルベシ
- 十、鶴田氏ノ意見ト同意見ノモノハ同氏ノ案に 符ヲ付シオケリ。

語彙の選定

具体的に細かく訂正を求めている。

東京語

1901年(明治34年)「尋常小学国語科実施方法要領」

国語教授ニ用フル言語ハ主トシテ東京ノ中流以上ニ行ハレ居ル正シキ発言及ビ語法ニ従フモノトス

文語、方言の混入

意見書に見られる漢語・文語の語句への修正の提言とその修正実施結果

松本亀次郎の草案	変更を提言	提言者	提言に対して	結果
見物に	見に	鶴田		×
用いる	する	鶴田	可	×
明後朝	明後日の朝	鶴田	両方	×
明後晩	明後日の晩	鶴田	両方	×
放歌して	歌って	鶴田	もとのまま	×
天稟	性質	鶴田	可	
端艇競漕	ボートレース	鶴田	可	
繁劇	劇しい	鶴田	可	
剛勢だった	強かった	鶴田		
失念いたしました	忘れました	鶴田		
後順の徳を欠いてをる人	腕白者	鶴田	ここ削除	×
感謝の至りです	有難い訳です	鶴田		×
寸志を呈するばかりです	ほんの志まで差し上げる許です	鶴田	可	×
痛痒を感じませんが	何でもありませんが	鶴田		×
迫ればとて	迫ったからといって	鶴田		
御通行の	お通りの	鶴田		
資本が出来たらしい	儲けたらしい	菊・佐	どちらでも	
必要が有っても	欲しくても	菊・佐	可	

語句はひらがなに変えて掲載、鶴田は鶴田健次、菊は菊池金正、佐は佐村八郎

近代日本語へ移行途中

会話として自然であるか

教科書に提出する語の選定基準をどのように考えるかという今日的課題を見ることが

ができる

提出順序

文法の品詞に視点をいた構成ではなく、用法、表現に焦点をおいて構成しようとしている。 ひとりの文法学者の理論に拘泥しない。

3. 『日本語教科書』から『改訂日本語教科書』へ

学習項目、提出順序はほとんど同じ 『日本語教科書』初版における完成度の高さ

金港堂版と有隣書屋版目次における違いの対照表			
金港堂書籍	目次における文法項目、表現	有隣書屋	目次における文法項目・表現
1 卷 1 2 課	長音	6 課	長音 第一表記法 第二表記法
1 8 課	拗長音	9 課	拗長音 第一表記法 第二表記法
2 2 課	力行の鼻濁音と普通の力行濁音 及びナ行との比較		
4 2 課	冊、挺、ヤ(並列)ト(並列)ト(指定)様(如し)	2 7 課	モ ヤ ガ
4 3 課	量、衝、ダース、から(故) デゴザイマス	3 1 課	カラ ニ マセウ
4 4 課	人倫、有リマス 有リマセン ゴザイマス ゴザイマセン		
4 5 課	人倫、モ ガ(反接) [マダ モウ]		
5 6 課	香り、味 デハ デモ テモ ノ(其ノ三)		
7 7 課	マイ [間ニ合フ]	5 7 課	ダラウ デセウ
7 8 課	ダラウ デセウ [チカイ、過ギ]	5 8 課	タラウ タダラウ タデセウ
7 9 課	タラウ [中々、随分、今ニ]	5 9 課	ラシイ
8 0 課	ラシイ [噂、処、アベコベ]	6 0 課	マイ
2 卷 2 3 課	儘ノ用法総括	8 8 課	儘 ナリ
2 5 課	ニ因って ニ因ルト ニ因レバ		
3 5 課	何処ガ 何処カ 何処モ 何処デモ 何処ナリト		
4 0 課	ダカラ善イガ/悪イガ デ善イガ/悪イガ		
4 2 課	トハ云フモノノ トハ云ヒナガラ トハ云フガ トハ云フケレド		
3 卷 1 7 課	埒モナイ 埒ガ明カン 不埒 ダラシナイ シダラモナイ 取り止メモナイ	1 2 0 課	埒モナイ 埒ガ明ク 不埒 不シダラ ダラシガ無い 取り止メモナイ
1 8 課	藪カラ棒ニ 出シ抜ケニ イキナリ ナリ	1 2 1 課	藪カラ棒ニ 出シ抜ケニ
1 9 課	中々 随分 可ナリ 余程 余リ ソレ程 サ程 ソンナニ ドチラニシテモ	1 2 2 課	中々 随分 可成リ 余程 余リ
2 0 課	イツレ ドノミチ ドチラニシテモ	1 2 3 課	イツレ イツレモ ドノミチ イツレニシテモ ドチラニシテモ
2 1 課	差シ当リ 差シ向キ 差シ詰メ		
2 2 課	一ト先ツ 先ツ		
2 3 課	就イテ 就イテハ 付		

用例一文の長さ

其ハ亜米利加ノ事デスカラ ヨイ学校ガイクラモ 有リマセウケレドモ 私ハ アナ
 タニ 一言忠告イタシマス。アナタハ オ氣ガ 余リアッテ 忍耐ガ 乏シイノデ
 兎角 目的ヲ 変更シテイケマセンガ 今度 亜米利加ヘ オ出ニナツタラ初メニ
 ヨク 適当ナ学校ヲ 選ンデ 一度 入学シタラ 必 卒業スルマデ 転校ナサラナ
 イヨーニ 希望イタシマス。(1 卷 68 課)

「私は 今日 神戸へ 参りますが 何か 用事が御座いますなら ご遠慮なく おっ
 しゃって下さい。」

「あなたが 神戸へ 御出でなさるなら 是非 一つ 御頼み申したい事が ございます。」

「何ですか 私に 相応の御用なら 何でも ご遠慮に 及びません」

「実は 私の弟が 神戸の 何学校に 勉強して居ますが 今月は まだ学費を送りませんから あなたが 余り 御忙しくないなら 持って行って 戴きたいでございますが 如何でせうか。」

「宜しうございます。何学校には 私の友人も 居ますから その者を 尋ねながら 御届けして上げませう。」

「其では 御迷惑ですが 是非 御頼み申します。」(1 卷 67 課)(かぎ括弧は筆者がつける)



「私ハ 今日神戸へ参リマスガ、何カ、用事ガ御座イマスナラ、御遠慮ナク、オッシャッテ下サイ」

「アナタガ 神戸へ御出デナサルナラ、是非一ツ、御頼ミ申シタイ事ガゴザイマス」

「サヨウデスカ。私デ 出来ル事ナラ、何デモ オッシャッテ下サイ」(『改訂日本語教科書』1 卷 48 課)

用例の内容

政治的話題（とくに戦争）

- ・ どうせ 講和に なるとしても 今一戦は 是非 遣らせないものでした。
(2 卷 37 課)
- ・ 軍ニカケテハ 日本軍人ハ 世界デ 名誉デス。(3 卷 25 課)
- ・ イザ 戦争ト云フ日ニハ 女子供デスラ 敵愾心ガ溢レテ居ルノデスカラ 血気ノ若者ハ 実ニ 天ヲモ 衝カンバカリノ勢ヒデス。(2 卷 14 課)
- ・ 若シ 講和ガ 成立シナカッタラ 哈爾賓ドコロカ 露西亜内地マデモ 攻メ込ム積リデシタウ。(2 卷 39 課)

徳目的観点

- ・ 国家ノタメトアレバ 縦ヒ 火ニ入ラウト 水ニ飛ビ込マウト チットモ 厭ハナイノハ 日本武士ノ特色ナノデス。(3 卷 24 課)
- ・ どうせ 一度は死ぬものですから 戦場で 花々しく 討死するのが 男子の本望です。(2 卷 37 課)
- ・ コンナニ 困窮シテ居テモ 祖先ノ名ヲ 辱カシメルヨ一ナ事ハ シマイ。
(1 卷 77 課)
- ・ 鳥獣デスラ 子ヲ 愛スル情ハ 深イノニ 如何ニ 貧苦ニ 迫ツカラト云ッテ 自分ノ子ヲ 棄テル者ノ アルノハ 実ニ 沙汰ノ限リデス。(2 卷 13 課)
- ・ 親ガ 折角 育て、呉れました体でございますから 粗末にしては 相済みません。(2 卷 29 課)

差別につながる用例

- ・あの盲は 目も 見えないのに 何でも 品の 善い悪いを 鑑定いたします。
- ・あの跛は 片足ないのに 義足で 並みの人よりも 早く歩きます。(1巻74課)
- ・盲啞学校ノ生徒ニ就イテ 調べテ見テモ 近親結婚ノ結果 盲啞ニナッタ者ガ慥カニ 多イ相デス。(2巻21課)

- ・私が 如何ニ 窮シテモ マサカ 車夫ヤ 馬丁ニハ ナリサガレマセン。
(3巻7課)

固定観念

- ・西洋人ハ 規律ガ 正シイノデ 何ヲ シテモ 無駄ガ 有リマセン。
- ・東洋人ハ 何ヲ 為ルニモ 規律ガ 正シクナイノデ 兎角 無駄ガ アリマス。
- ・欧米諸国ハ 種々ノ科学ガ 発達シマシタノデ 文明富強ニ ナリマシタ。
- ・東洋諸国ハ 科学ノ進歩ガ 西洋各国ニ 後レマシタノデ 彼等ノ下風ニ 立ツヨ一ニ ナリマシタ。(3巻9課)

- ・アノ女学生ハ女ノ癖ニ 酒ナド飲ンデ男女同権論ヲ饒舌リ散シテ居マス。
(3巻6課)

- ・女といふ者は 始終 物柔かに 立ち振舞って 決して 角立ってはいけません。
(3巻7課)

教科書としての中庸性

Simple is the best.

理解する 使える

4. おわりに

教科書編纂に際し文法項目、提出順序、語彙の選定等日本語担当教授が建設的な意見を述べている その結果今日の教科書に通じる内容となった。

初版本を改訂するにあたり用例の量、長さを整理し簡潔にしている。

また内容は中庸性を保つ内容を心がけている。

今日の教科書作りのひとつの考え方に通じる方針をみることができる。

参考文献

- 平野日出雄(1982)『松本亀次郎伝』静岡教育出版社
- 二見剛史(1994)『論文集 中国人留学生教育と松本亀次郎』私家版
- さねとうけいしゅう(1981)『中国留学生史談』第一書房
- 関正昭(1997)『日本語教育史研究序説』スリーエーネットワーク
- _____(1994)「日本語教科書の系譜(第一期) 松本亀次郎・松下大三郎・松宮弥兵編
を中心に」『研究紀要』第16巻第1号 鹿児島女子大学 pp.1 - 21
- 張金塗(1993)「松本亀次郎の中国人に対する日本語教授法の一考察」『言文対照漢訳日
本文典』(明治41年)を中心に」『日本語教育』42号 pp. 207 - 213
- _____(1994)「戦前の日本における中国人留学生に対する日本語教育の歴史的研究 宏(弘)文学院を中心
として」『広島大学教育学部紀要』第2部43号 pp. 255 - 265
- 増田光司(2001)「『言文対照 漢訳日本文典』解題 その特徴および文法を中心として」『東京歯科大学教
養学部研究紀要』第31号 pp. 15 - 57
- 坂根慶子(1993)「宏文学院における日本語教育」『東海大学紀要留学生教育センター』13号 pp. 1 - 16
- 蔭山雅博(1980)「宏文学院における中国人留学生教育 清末期留日教育の一端」『日本の教育史学』23号 pp. 58 - 79
- 吉岡英幸(2004)「松本亀次郎編纂の日本語教材 語法型教材を中心に」『早稲田大学日本語研究』6 pp. 15 - 27
- 松下大三郎(1906)『漢訳日語階梯』誠之堂
- 三矢重松(1908)『日本高等文法』明治書院
- 安部洋(2002)『中国の近代教育と明治日本』龍溪書舎
- 飛鳥良文(2004)『言文一致運動』明治書院
- 柴田義松(1992)『道德教育 理論と実践』学文社